

福岡東在宅療養シンポジウム アンケート集計 (H27年11月14日)

1, アンケート回答者の男女別, 年代別内訳

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	年代不明	合計
男性	0	2	5	7	5	11	7	6	0	43
女性	1	7	15	19	21	30	21	5	4	123
性別不明	0	0	0	0	1	1	3	0	0	5
合計	1	9	20	26	27	42	31	11	4	171

2, このシンポジウムに参加した動機(複数回答)

- 1) 在宅介護に関心があるから **74 人**
- 2) 家族に介護が必要な人がいるから **39 人**
- 3) 将来の介護に備えて **67 人**
- 4) 現在, 在宅介護を検討しているから **3 人**
- 5) 自分の仕事に役立てるため **97 人**
- 6) その他 **30 人**

- ・民生委員の仕事に役立てるため
- ・ケアマネジャーから紹介されて
- ・劇を見たかったから
- ・地域包括ケアに校区で取り組んでいるから
- ・明日はわが身と思って
- ・ボランティアに役立てるため

3, 在宅介護の実際について理解できましたか。

- 1) 理解できた **93 人**
- 2) まあ理解できた **56 人**
- 3) あまり理解できなかった **1 人**
- 4) 理解できなかった

4, 寸劇はいかがでしたか。感想等があればご自由にお書きください。

- 1) とてもわかりやすかった **103 人**
- 2) わかりやすかった **36 人**
- 3) ややわかりにくかった **1 人**
- 4) わかりにくかった

【全体について】

- ・ユーモアたっぷりでも楽しかった。(同内容の回答多数)
- ・スライドとパネル, ナレーションがうまく組み立てられわかりやすい内容だった。
- ・脚本や演技のクオリティが高く, 皆さん名優だった。バイオリンもうまく間を作っていて素晴らしかった。
- ・分かりやすくコミカルで, 心にじんんとくる劇で楽しませてもらった。BGMがとても効果的でした。
- ・訪問薬剤師ができることがわかりました。多職種で取り組みば可能であることがよくわかりました。
- ・たまがよかった。ポチもかわいかった。
- ・ちょっとだけでも家に帰りたいという内容がうまく伝わってきた。”ちょっとだけ”の合言葉が良かった。
- ・劇はすばらしく, 花束贈呈も良かった。
- ・昨年よりも劇の内容がバージョンアップしていて, 在宅での生活を支える要素が折り込まれていて素晴らしかった。役割もわかりやすかった。来年も期待したい。
- ・役者揃いで驚きました。さすがに現場の方々で作られただけあってわかりやすかったです。
- ・地域包括ケアにおける在宅ケアのポイントを, 笑いを交えながらテンポ良く整理されていてわかりやすかった。このような寸劇のキャラバン化をしても良いのでは? 小さなちょっとした積み重ねやきっかけをストーリー化できていると思った。
- ・1回だけではもったいないので, 地域の講座等でも活躍してほしい。

【在宅療養への思いや感想, 専門職の関わりや家族への負担について】

- ・医療依存度の高い方でも在宅で過ごせることを自然に伝えていて, 大事なことをあたたかく伝えていたと思った。
- ・大変なはずの在宅介護が, 楽しく明るく感じられとても参考になった。
- ・在宅療養をとりあえずやってみようかなと思えた。在宅で療養できそうな気がしてきた。
- ・いろいろなサポーターの方がいらっしゃるという事, 心強く思いました。

- ・今後、主人か私が病気になっても在宅療養できそうです。
- ・家族に二人重度障がい者がいて、夫は要介護1で毎日大変ですが、何だかそれほどのことでもない様な気持ちが致しました。
- ・親を介護する時の参考になり 不安感が減った。
- ・東区にこんなユニークな在宅介護チームがあるとは思わなかった。一人でも最後まで我が家で暮らしていけることにうれしく思い、元気で長生きしようと思いました。
- ・退院後の生活がよく理解できた。今、在宅を考えている人の気持ちを、あと押しできる内容だったと思う。
- ・これからの日本のあるべき姿が見えたようです。
- ・過不足の無いサービス提供に医療と介護の連携が大切だと思います。家族の思いを汲み取ってくれるケースワーカーやケアマネの支援が家族を安心させてくれる。
- ・本人の意志が重要。日常の家庭のつながり重要。介護士の心が家族として接することが大切だ。
- ・家族の支えが大切だと思うが、自分の心が1番大切、何事もやれるうちは 頑張ることが必要。
- ・本人の自立のために、家族がいる人は協力が大事。
- ・在宅介護の場合 介護を受ける者の「ありがとう」の一言が1番大事。
- ・できる事なら在宅介護を受けながら最後まで頑張れたら最高です。
- ・家族の気持ちも大切ですが、本人がどうしたいのかが1番大切だと改めて感じた。
- ・家に帰ってからも助けがあること。それでも家族の負担はゼロにはならないこと。でも、自分の愛する人が家に帰ったときに「よかった」と笑顔になれば それだけで、あと少し頑張ろうと思えるんだなと思いました。
- ・在宅復帰にむけて、病院から在宅へつなげる支援について とても分かりやすく現実的な面がリアルでした。経済的な部分もあると思いますが 在宅の良さが伝わりました。
- ・多くの方が支えあって地域の方の暮らし、不安を少しでも減らすことができると思います。今は亡き祖父母の老老介護を思い出しました。
- ・家で看護、介護することのプラス面がよくわかった。
- ・やっぱり在宅が、家が一番と思った。家に勝るものはないと思った。
- ・かっこよく老いて、かっこよく死のうと思った。
- ・みんなが少しの優しさを出すことで、患者の気持ちを満たせるということを再認識できました。
- ・家族に介護が必要に迫られていますので色々勉強になりました。感情的にならない様気をつけて接したいと思います。出来るだけケアマネジャーに相談していきたいと思っています。
- ・やっぱり家が1番よか！タイトルにあったように家族の理解があつて 相談員やケアマネジャー、医師、看護師、薬剤師などの協力のもと、本人の意志を考えて在宅介護が良いと思いました。
- ・介護にいたる前、どんな夫婦の間柄だったかは鍵だと思うけど、相手を思いやらなかった人が家族から心地よい介護を望むのはムリ。けれど他人の介護を仕事でやってくれる方々は、いつもベストをベターを考えて行動してくれる。
- ・早く劇のような体制がとれればいいですね！現実はまだなかなか厳しいものです。社会全体に認知されることを願います。
- ・不安ばかりの状況でも、やってみようと言える自信ができました。家族も私もまだその状況にはないが、今後、親の介護を考える時にも思い出せるだろう。このようなチーム医療、介護がどこでも出来る組織をつくりあげる努力をしていきたいと思う。
- ・他区の医療関係者から東区のネットワークはとてもいいと聞いていましたが、それを感じられる劇でした。

・寸劇は、おもしろおかしく見ることが出来ますが、実際いろんな壁にぶつかり大変なことが多いと思います。今現在、私も母が認知症で小規模多機能居宅介護でお世話になっておりますが、これからどうしようかと本当に迷っております。

・両親とも亡くなっておりますが、最後を家で迎えさせてあげられなかったのが心残りです。(特に父が家に帰りたいと帰りたいと言っていたので。)

・ソーシャルワーカーのことは、以前ケアマネさんに教えてもらったときに知りました。ソーシャルワーカーも忙しくカンファレンスという話合いの場はなかった。電話で看護師さんのやりとりだった。病院によっても違うと思う。しかし在宅で過ごしやすくするためのスケジュール管理をきちんとしていくために、カンファレンスは大事だと思う。

【疑問・質問等】

- ・少しサービスが過剰ではなかったでしょうか？
- ・現実には、夫婦二人又は一人暮らしが多い。一人暮らしの人でもできるのでしょうか？

5, 今後のシンポジウムのテーマとして希望するものをお選びください。

1)在宅介護について 2)終末期ケアや看取りについて 3)認知症の人への対応の仕方について

27人

57人

83人

4)その他

7人

・地域支援について ・うつ病に対する家族の対応 ・家族と利用者が明るく楽しく暮らす為には。
 ・老人ホームの選び方。

6, 本日の感想がありましたら, ご自由にお書きください。

【全体について】

- ・関係者の皆様の熱意に感謝。お疲れさまでした。チームワークが素晴らしかった。来年も開催してほしい。
- ・在宅療養は簡単なことではないと思うが、こんなにたくさんの人たちがこのシンポジウムに参加し、一緒に考えようとしていることがすばらしいと感じた。
- ・このような機会に より多くの方に参加していただきたいと思います。素晴らしいシンポジウムです！
- ・来場者が昨年より一般の人がふえてるようで 浸透してきてるのだなと思った。
- ・参加して本当に良かったです。看取りや認知症と身近な問題に対して、“何”が起きるのかわからないので、しっかり学習できました。
- ・とても参考になり, もっと勉強したいと思った。
- ・校区社会福祉協議会のテーマとして参考になった。
- ・働きながらの在宅看護を続ける為には, 今日のスタッフの方々の援助なしにはありえないことです。どうぞこれからも手助けの程、宜しくお願いします。

【体験談について】

- ・介護者のお気持ち、具体的状況がよくわかった。勉強になった。(回答多数)
- ・在宅看護の難しさが、二人の体験談から良くわかりました。三本の矢 看護を一人で抱え込まないでまわりに助けを求めようと思いました。
- ・娘さんのお話が身につまされました。私も娘が二人いますので。
- ・介護する側の意見が聞けて、感情的にならないということがとても印象に残りました。
- ・実際の介護体験を聞いて、すごく大変なんだと改めて感じました。その中でいろんな在宅医療の人達のつながりで一人の利用者様を見守っていくシステムが大事なんだと思いました。私も訪問マッサージをさせて頂いているので、少しでもご家族の方がほっとできる時間を作れるようにしていきたいと思いました。また いろんな方々と情報を共有していけたらと思います。
- ・お二人の経験者の方のお話, 明るくて何だか自分でも出来るかなと思えました。
- ・在宅介護経験者のお二人のお話を聞かせていただくことができ、在宅介護の必要性や意義を改めて感じる事ができました。自分自身は介護士として事業所で利用者様やご家族の方に対していかに質の高い介護を提供できるかということを考えてきましたが、もっと視野を広げて地域包括ケアの一部としての介護を意識して動いていかなければいけないと、ようやく認識(自覚)できました。

【在宅介護の経験を踏まえた感想や意見】

- ・私も家で介護をしていますが、在宅での流れの話を知ってよかった。私も仕事をしていて職場の理解もまだまだ自分の体調も管理できなくなるので、その時どうしたらよいか少しわかった。良いケアマネ、医師、看護師ボランティアさんに出会えることも重要。在宅での人とのふれあいの良さは、よく分かった。人の生命力に感動した。高齢の方の不安が少しでもなくなるような地域の取組みは、すごく大事だと思います。
- ・体験談はとてもためになった。仕事、家族の介護を行う際に心にとめておきたい。
- ・癌手術後の父が 療養生活半年を病棟で過ごし他界した。母は毎日、半年つききりだったが、術後、父がリハビリをきつがってサボったこともあり、最後三ヶ月は殆ど寝たきりになった。いろいろな在宅療養サービスなどわかりやすく紹介できるハンドブックなどあれば活用し、その当時一生懸命説明して、自宅療養できるようになるまで、リハビリのモチベーションをあげさせることができたことと悔やまれる。
- ・私も4年前、妻の母(95歳)を在宅で看取りました。ご家族の発表の中で親族や友達が来ると、本人がすごく元気になるというお話がありました。私の義母も遠くに住む娘や孫が来ると、びっくりするくらい元気になったのを思い出し、同じなんだと思いました。また「これでよかったのか」という疑問は本当にそうです。「人の最期」「死」等々多く、逝った義母に教えられたことに本当に感謝しています。本日は大事なお話を下さった御家族に感謝します。
- ・私は寝たきりの母を在宅で5年介護しています。私の地域では介護家族同士話せる場がありません。在宅で介護されてる方の生の声をもっと聞ける場がほしいです。たくさんそんな場を作ってくださいれば幸いです。
- ・私の母は今、特養に入っています。同居中一人で動いていたのですが、足が重くない、何回も転倒し、動けなくなりました。

「母は70歳に近づいていきました。母は、一人で動いていたのが、足が弱く、自分で動けなくなりました。居ることになりました。“家がよか”はよく分かるのですが実際は本当に大変だと思います。24時間体制でサポートできる所があるのは初めて知りよかったです。是非利用させていただきます。

・うちにはストーマを持つ義母がおり、今はまだそんなに手をとってはいないのですが、今後、年齢を重ねていくにつれてのようになっていくのか不安で、今日話を聞きに来ました。経験談を聞きとても参考になりました。医療従事者ではないのでこの様な場に足を向けることは今までありませんでしたが、沢山の方々が関わっている事を知ることができて、改めて母は恵まれた環境にあったと思いました。

【その他の感想】

- ・一人暮らしの高齢者の一人です。今はどんどん外へ出て人とふれあい情報収集に努めています。このような機会が自宅の近くで勉強出来ることを願い健康を保つ努力をしています。
- ・がんばりすぎずに“ちょっとだけ”とてもいいと思います。
- ・まだまだ家に帰ることに不安を感じている方が多いと思いました。多くの人がこのシンポジウム(寸劇)をみられるといいと思いました。
- ・人それぞれの生き方や、現実が違う。ベストは何なのか、これからの課題です。
- ・介護する人も介護される人も お互い「おかげ様」の気持ちをもてたら良いと思います。
- ・1人目竹下さんの話がマイクの関係で聞き取りにくかった。介護者の健康(ストレス)について関心があるので、地域での介護者の情報確保及びケアについて考えたい。
- ・70歳代となると、今後に不安だと思ふことあり、現在健康であるにしても心の隅では不安がつきまとう。年齢のせいだからとは思ふが、安心は沸いてこない。最後は人生なるようにしかならないとの結論である。歳取ると言うことは寂しいことですよ。人生あきらめるとは、何と悲しいことか。
- ・『在宅介護』はすばらしい事ですけど、介護を受ける人の“家にいたい”という気持ちと共に、介護をする人の無理のない介護、お医者さん、ケアマネさんヘルパーさん達とのつながりが大事なんだと改めて思いました。
- ・福岡東在宅ケアネットワークの存在を知ることができ、大収穫でした。地域包括ケアの取り組みに、力強い味方が現れたと思います。

【次年度に向けて(意見や希望等)】

- ・「在宅介護」の方向性が示されている今日、年度毎にテーマを取り入れ繰り返しその内容を分かりやすく、お示し頂ければと感じています。
- ・介護力が乏しい事例や、経済的問題がある方が在宅療養を希望される場合の、療養支援についてアドバイスや経験談があれば 教えていただきたい。
- ・一人暮らしの高齢者の場合の在宅介護について、もっと知りたい。
- ・医者か看護師さんの体験などを聞きたかった。
- ・様々な段階があると思いますがインフォーマルなサービス利用についてももう少し取り上げていただければいいのではないかと思います。
- ・認知症について、もう少し具体的に知りたい。
- ・もっと介護、介護保険のしくみなど行政にリードをとってもらいたい。そこに協力する人はたくさんいます。
- ・駐車場の満車が困りました。13:20にきましたが もう並んでいましたので帰ろうかと思いました。